

高円寺駅周辺エリア防災計画

高円寺駅前滞留者対策連絡会

令和元年 9 月

1 計画策定の背景

首都直下地震（マグニチュード7.3、震度6強）が午後2時に発生した場合、杉並区内には、学校や会社にいる人、買物をしている人、移動中の人で約34万人の滞留が発生すると推計されています。高円寺駅周辺では、JR中央線の乗降客や駅周辺の買物客などにより、数千名の駅前滞留が発生することが見込まれます。

※JR高円寺駅の一日あたりの平均乗降客数（2018年度）

103,526人（乗客数51,763人×2で算出）

鉄道機関では、全線が停止となり線路や駅舎の点検確認に入り、被害状況によっては数日間の運行停止となり、徒歩による帰宅困難者が多数発生すると想定されます。

一方、JRから南約900mに位置する青梅街道の地下を通る東京メトロ新高円寺駅や東高円寺駅を利用し、発災により駅前に滞留する帰宅困難者が多数発生すると想定されることも無視できません。

※東京メトロの各駅の乗降人数ランキング（2018年度一日平均）

新高円寺駅 38,161人（乗降客数）

東高円寺 36,410人（乗降客数）

（参考）東京湾北部地震による杉並区での被害想定（平成24年4月発表）

・規模 M7.3 ・時間 午後6時 ・風速 8m

死者	556名
負傷者	4,849名
建物被害(全壊)	3,692棟
地震火災(焼失)	23,028棟（P.11 地震被害シミュレーションマップ参照）
避難者数	176,369名
徒歩帰宅困難者	92,357名 このうち、行き場のない帰宅困難者が18,024名

※行き場のない帰宅困難者

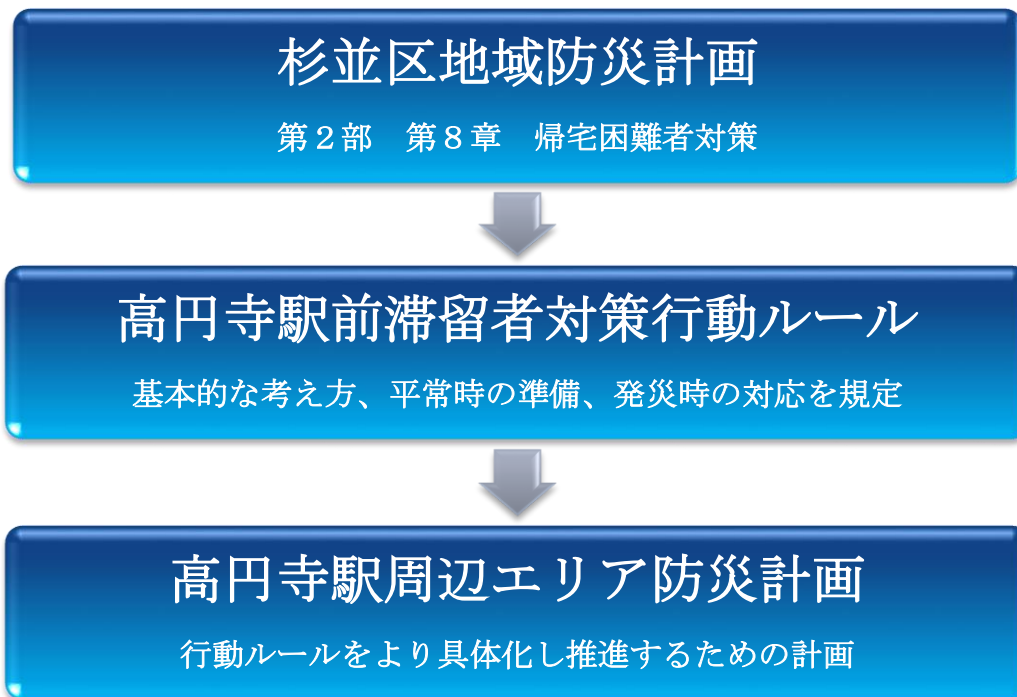
徒歩で自宅へ帰宅することのできない人（徒歩帰宅困難者）のうち、学校や会社などに留まれる場所（行き場）のない人 [例：来街者や日帰りのビジネスマンなど]

2 計画の目的

- 大規模地震等発生時の高円寺駅周辺地域で想定される、滞留者や帰宅困難者の発生による混乱を防止し、安全に暮らせるまちづくりに資する。
- 高円寺駅周辺の事業者等関係機関との連携をさらに強め、災害に強いまちづくりを確立する。

3 計画の位置づけ

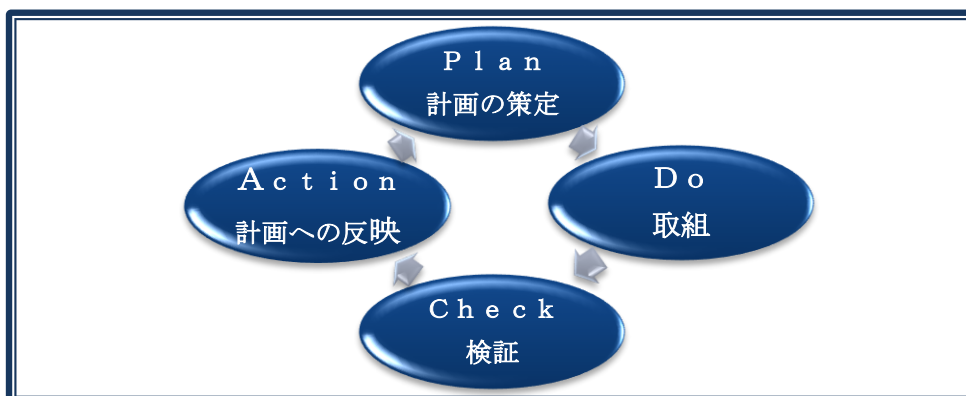
高円寺駅周辺エリア防災計画は、杉並区地域防災計画「第2部第8章 帰宅困難者対策」及び「高円寺駅前滞留者対策行動ルール」に基づき、帰宅困難対策、駅前滞留者対策をより具体化し、推進する計画である。



4 計画の対象期間及び推進

- 本計画は、期間を定めず、PDCAサイクルにより、計画にそって取組の実施、結果の検証、改善、計画へのフィードバックを行う。
- 本計画をより実効性のあるものとするため、本計画の趣旨・内容を、高円寺駅周辺住民をはじめ、幅広く周知を図り、関係者の理解と協力を深めていく。
- 本計画に記載する滞留者等の安全確保に向けた取組等が、災害時にも円滑に実行できるように、定期的に訓練等を実施する。

※ 期間を定めず、PDCAサイクルにより、計画に沿って取り組み、結果の検証、改善、行動ルール、計画への反映を行う。



5 地域特性及び課題

- ・高円寺駅に比較的近い場所に、公共施設として「ゆうゆう高円寺南・北館」「座・高円寺」「杉並第四小学校」のほか、高円寺駅から約600m南に「杉並第八小学校」、「高円寺中学校」、「杉並福祉事務所高円寺事務所」があります。
- ・主要な道路としては、南側に青梅街道、北側に早稲田通り、東側に環状7号線があり、また高円寺駅南口から青梅街道に続く高南通り（阿波踊りの会場となる）があるが、その他は狭い道路が多い。
- ・JR高円寺駅は、小さいながらも南口と北口に広場がありますが、十分な滞留可能なスペースとは言えません。また、災害時には、丸ノ内線新高円寺駅から避難者が流れてくる可能性もあります。なお、東高円寺駅には、防災公園である区立蚕糸の森公園（広域避難場所の「セシオン杉並周辺一帯」の一部）があり、避難者の滞留可能なスペースがあります。
- ・商店街の脇を少し入ると、住宅地で老朽した木造住宅が多く、火災危険度が高い木造住宅密集地域に指定されています。（阿佐谷南地区、高円寺南地区が木造住宅密集地域）
- ・高円寺駅では、駅舎の耐震化や食糧や飲料水などの備蓄をすすめています。一時滞在施設への誘導などにあまり人員を充てにくい状況があります。
- ・連絡会委員には、震災救援所役員をしている人が多く、滞留者対策の対応が難しいといった実態があります。
- ・広域避難場所としては、中野区との区堺に「中野区役所一帯」の広大な広域避難場所があり、少し東南には、「蚕糸の森公園一帯」や「セシオン杉並妙法寺一帯」の広域避難場所があります。やや北西に、一時避難地として、「馬橋公園」もあります。
- ・新宿や中野等の都心部から、多数の帰宅困難者の流入が考えられます。

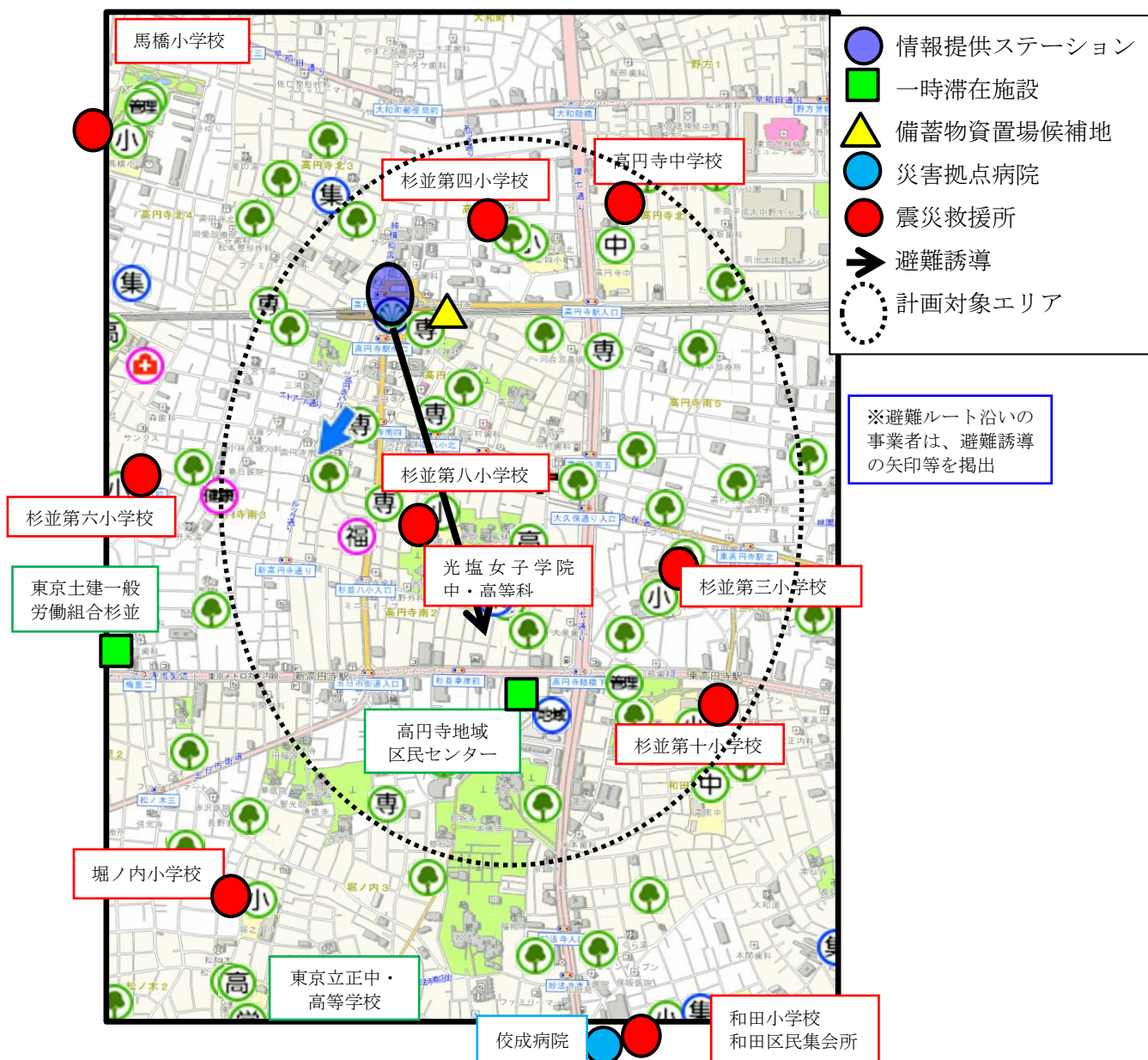
【今後検討すべき課題】

- 行政・鉄道事業者・商業施設等、関係機関の役割の継続的な検討
- 発災時における情報の共有、提供方法
- 配慮が必要な滞留者（外国人・障害者・高齢者・妊婦・乳幼児等）の対策
- 新たな一時滞在施設の確保
- 一時滞在施設等への誘導方法及び誘導主体の具体化
- 隣接区（中野区）との連携

6 災害発生時の連携・協力体制

多くの帰宅困難者が滞留すると想定される駅周辺等で情報提供を行うとともに、状況に応じて安全な地域や一時滞在施設への避難誘導、一時滞在施設の運営協力を行う。

<高円寺駅周辺の帰宅困難者対策(イメージ)>



○ 高円寺駅周辺では、駅北口又は南口に情報提供ステーションを設置し、駅周辺の屋外滞留者に対し、災害関連情報の提供を行います。情報ステーションで使用する物品については、駅舎などに保管（約6㎡＝2×3）できるか検討が必要となる。

また、駅構内の安全が確認された場合は駅構内への誘導を行い、一時滞在施設が開設された場合や近隣の施設に滞在スペースを確保できた場合には、当該施設への誘導を行う。

7 災害関連情報の提供

(1) 情報収集及び情報提供

- 区は、国、都、警察、消防、マスコミ、鉄道事業者、公共機関等から災害関連情報（公共交通機関運行状況、道路被害状況、一時滞在施設開設状況、火災発生状況等）の収集や「すぎナビ」への投稿情報の活用を行い、収集した情報を、防災行政無線等を通じて、公共交通機関、避難所、一時滞在施設等へ定期的に提供する。
- 区、高円寺駅周辺の事業者、町会、商店会等（以下「駅周辺事業者等」という。）は、屋外滞留者への情報提供の場として、駅周辺に情報提供ステーションを設置する。

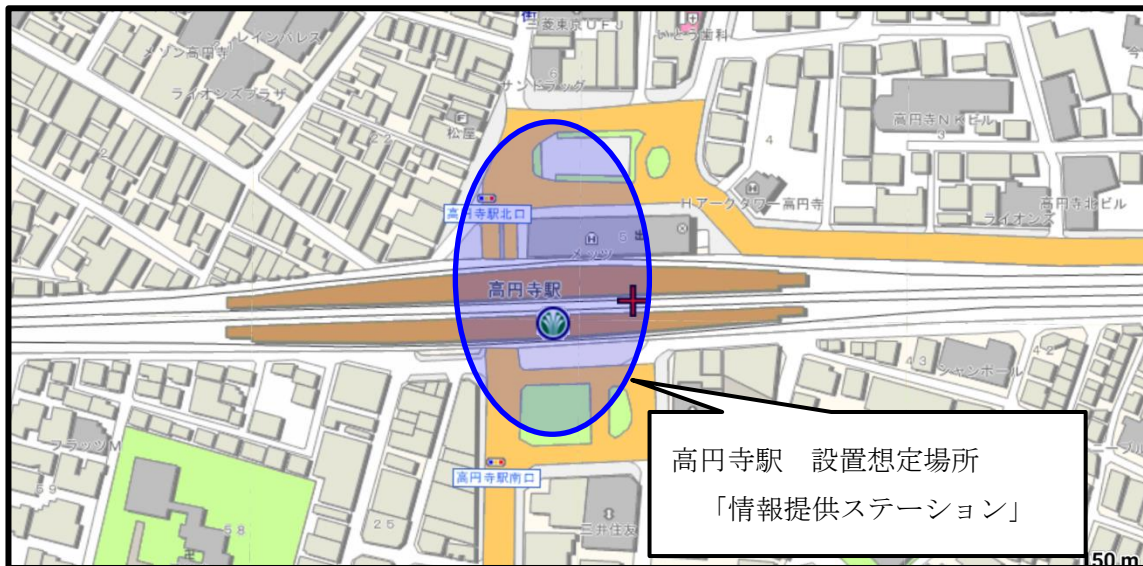
(2) 情報提供ステーションの運用

- 情報提供ステーションは、区、駅周辺事業者等が連携・協力し、数名程度の人員により運営する。
 - 駅周辺事業者等は、自助の取組が一定程度落ち着いた後に情報提供場所に参加し、情報提供ステーションを設置する。
 - 区は、駅及び情報提供ステーションに防災行政無線等により災害関連情報（一時滞在施設の開設状況を含む）の提供を行う。
 - 情報提供ステーションは、駅前の滞留者に区が事前に準備した高円寺駅周辺地図（災害時帰宅支援マップ）を配布し、近隣の広域避難場所、一時滞在施設等の案内を行う。
 - 備品の保管スペースにおいて、駅舎などに保管ができないかを早急に調整する必要がある。
- ※ 区職員（救援隊本隊帰宅困難者対応班2名程度）は、発災後約6時間後までにJR各駅に配備される。その後は駅周辺事業者等と職員が協力し、情報提供ステーションの運営にあたる。

(3) 情報提供ステーション設置備品（例）

- | | | |
|-----------|-------------------|--------------|
| ○ テント | ○ 机、椅子 | ○ 投光機及び発電機 |
| ○ コードリール | ○ メガホン | ○ トランジスタメガホン |
| ○ 看板 | ○ ベスト | ○ ヘルメット |
| ○ 筆記用具 | ○ 帰宅困難者支援マップ（配布用） | |
| ○ ホワイトボード | | |

(4) 情報提供場所（案）

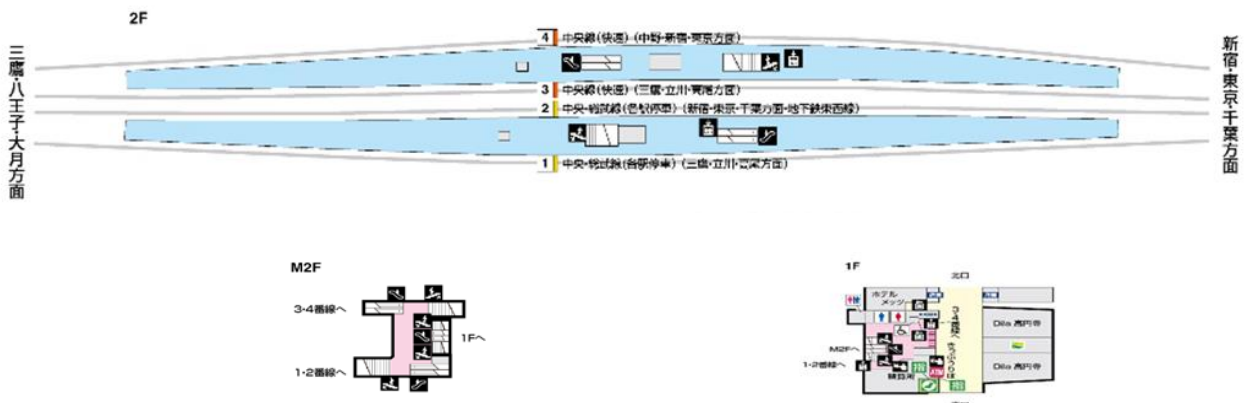


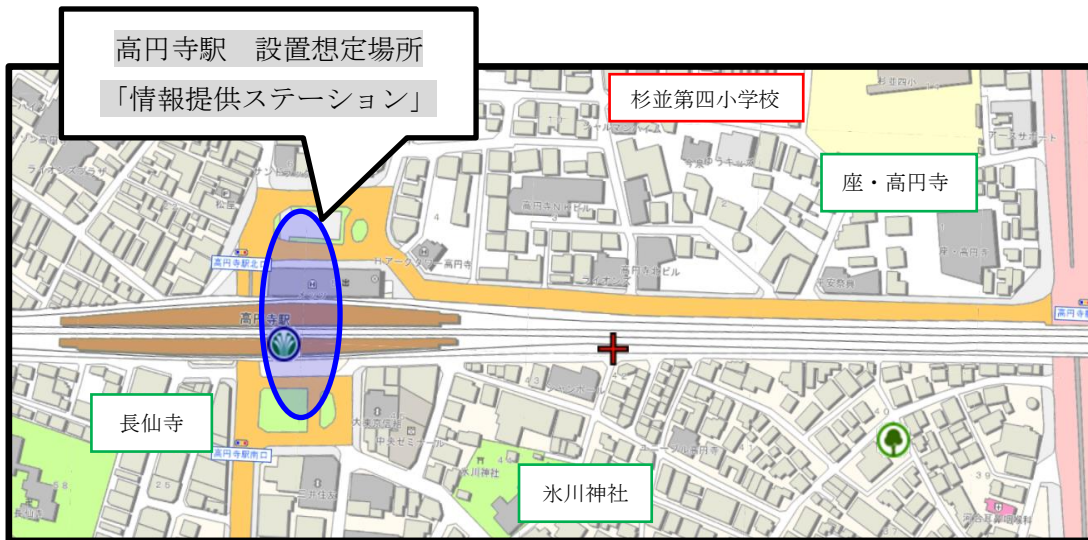
8 避難誘導

(1) 避難誘導方法

<第1段階（災害発生から一定程度落ち着くまで）>

- 施設管理者や鉄道事業者は、各々のマニュアルに従い従業員、職員、利用客等の安全を図る。
- （建物の被害や火災等で）施設の安全性が確認できない場合や、利用者数が収容範囲を超えているなどの理由で利用者を施設外に誘導する際は、情報提供ステーション等で情報を共有するとともに周辺の空地等の安全な場所までの避難誘導を行う。
- 避難路となる道路状況や火災の影響などを確認する。
- 安全な場所までの避難誘導経路が道路を横切る場合には、信号が停止している等の状況で相当な混乱が予想されることから、横断歩道の両端に人員を配置して避難誘導を行う。

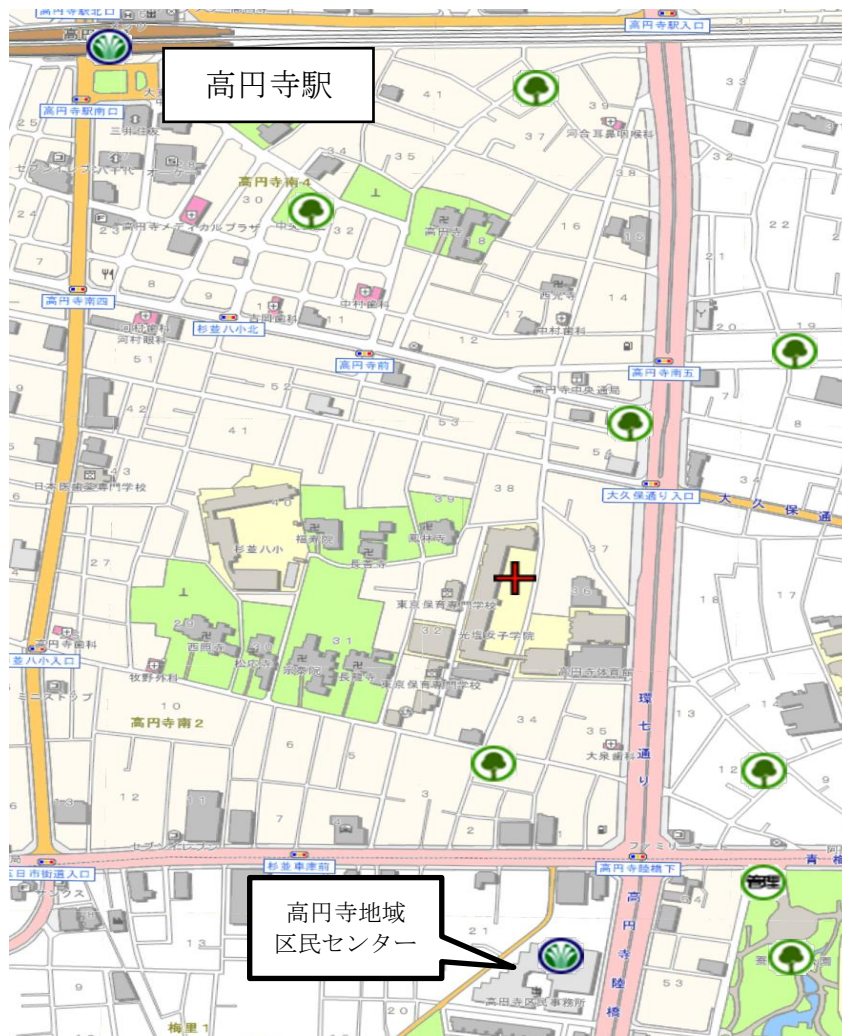




<第2段階（一時滞在施設が開設されてから）>

- 情報提供ステーションは、区から一時滞在施設が開設された情報を得た場合は、高円寺駅周辺にいる屋外滞留者に情報を提供し、一時滞在施設まで避難誘導する。
- 直接避難誘導を行う場合は、ヘルメット、共通のベストを着用し、誘導灯及びメガホンにより行う。

<一時滞在施設(高円寺地域区民センター)>



<一時滞在施設(「東京土建一般労働組合杉並支部」、中野駅北口周辺)>



民間一時滞在施設である「東京土建一般労働組合杉並支部」が、青梅街道沿いにあり、帰宅困難者の受入可能人数100人として登録されています。

高円寺駅北側の一時滞在施設が現在、不足している状況にあります。発災後の大規模火災などから避難するうえで、広域避難として、「中野区役所一帯」も視野に入れておく必要があります。

9 一時滞在施設

(1) 高円寺駅周辺の一時的滞在施設 (平成31年7月現在)

○高円寺地域区民センター (区立: セシオン杉並) 杉並区梅里1-22-32

最大受入人数 (950名)

○東京土建一般労働組合杉並支部 杉並区高円寺南3-6-2

最大受入人数 (100名)

○立正佼成会 大聖堂 杉並区和田2-11-1

第二団参会館 杉並区方南2-29-25

○中野駅周辺エリア

(2) 杉並区内の一時滞在施設（平成31年7月現在）

種別	施設名称	所在場所	受入可能人数	
都立	1	都立杉並高等学校	杉並区成田西4丁目15番15号	493
	2	都立豊多摩高等学校	杉並区成田西2丁目6番18号	300
	3	都立農芸高等学校	杉並区今川3丁目25番1号	200
区立	4	井草地域区民センター	杉並区下井草5丁目7番22号	300
	5	西荻地域区民センター	杉並区桃井4丁目3番2号	625
	6	荻窪地域区民センター	杉並区荻窪2丁目34番20号	350
	7	阿佐谷地域区民センター	杉並区阿佐谷南1丁目47番17号	300
	8	高円寺地域区民センター	杉並区梅里1丁目22番32号	950
	9	高井戸地域区民センター	杉並区高井戸東3丁目7番5号	625
	10	永福和泉地域区民センター	杉並区和泉3丁目8番18号	350
民間	11	創価学会 杉並文化会館	杉並区阿佐谷南3丁目51番3号	100
	12	立正佼成会 大聖堂/第二団参会館	杉並区和田2丁目11番1号/杉並区方南2丁目29番25号	500
	13	松本工業(株) 宮前ビル	杉並区宮前1丁目20番32号	50
	14	東京土建一般労働組合杉並支部	杉並区高円寺南3丁目6番2号	100
	15	ネットヨタ東京(株)	杉並区下高井戸1丁目17番15号	100
	16	ワールドメイト	杉並区西荻北4丁目14番19号平成ビル3階	140

○中野駅周辺エリア一時滞在施設（中野区ホームページ）

	施設名称	所在場所
1	明治大学 中野キャンパス	中野区中野4丁目21番1号
2	帝京平成大学 中野キャンパス	中野区中野4丁目21番2号
3	早稲田大学中野国際コミュニティプラザ	中野区中野4丁目22番3号
4	中野サンプラザ	中野区中野4丁目1番1号

(3) 一時滞在施設の開設

各一時滞在施設は、施設の損傷の有無や施設利用者の滞在状況を確認し、一時滞在施設の開設の可否を区に連絡する。

区は、開設した一時滞在施設に関する情報を防災行政無線、Ｌアラート、エリアメール、防災情報メール、ホームページ、ツイッター等により、鉄道事業者、情報提供ステーション等に情報を提供する。

(4) 一時滞在施設の運営内容

一時滞在施設の運営は、各施設のマニュアルに基づき、主に以下の項目について、施設管理者と区職員（帰宅困難者対策班）とが協力して行う。突発事象発生時については、協議して運用し、応援が必要な場合は区災害対策本部に連絡して要請する。

- 帰宅困難者の滞在スペースの提供
- 施設滞在者への食料、水、生活物資等の提供（施設への物資運搬含む）
- 施設滞在者への災害関連情報（被災状況、交通情報等）の提供
- 施設滞在者への通信連絡手段（特設公衆電話、携帯充電器等）の提供

(5) 一時滞在施設運営支援

一時滞在施設に避難者が殺到し混乱する可能性がある場合は、可能な範囲で駅周辺事業者等も支援する。

- 備蓄物資の運搬及び配布
- 一時滞在施設運営用資機材の設置
- 施設内の防犯、警備

(6) 広域避難場所の活用

火災発生状況により、適宜安全な誘導路を案内する。

※地震被害シミュレーション（焼失18時・8m/s）

